



ファンドとの付き合い方

財中小企業総合研究所 主席研究員 坂東輝夫

「**フ**ァンドには無縁と農夫種を播く」

朝日川柳で見た一句である。確かにこの句のように、庶民の暮らしにはファンドなんて、縁のないものと思える。楽天、ライブドア、村上ファンドと世間は騒がしい。しかも、昨日、今日株を握ったばかりのファンドが、相手先の企業にあれこれと注文を付けてくる。なんと、凄まじい世の中になったものである。

中小企業も言ってみれば経済界の庶民のようなものだから、川柳の農夫のようにファンドなど関係ないと思っているところが多いのではないか。実際その通りで、株を公開していないから、ファンドに株を買い占められることはないだろう。

それに、ファンド対策にあれこれ力を割く時間があつたら、その分、社業に一生懸命励むのが筋のように思える。ファンドをもてあそぶ連中は、「企業価値の向上」をよく口にするが、企業価値を向上させるには社業の発展に勝るものがないのだから。

とはいえ、資金過剰の現在、ファンドの隆盛が一過性のものとは考えられない。経済社会が公的規制から市場を軸にして動くように変わってきたのを見ても、

ファンドの悪口を言っているだけで済むとは思えない。それに、ファンドを使った敵対的買収をどう評価するかはともかくとして、ファンドにそれなりの効用があるのも事実である。

たとえば、企業再生ファンドを見るがいい。ファンドを使って潰れそうな企業を買収して経営陣を入れ替え、事業内容を組み直して、企業を再生させる。大手銀行から観光地の旅館まで、ファンドが手がけた企業再生事例にはこと欠かない。産業再生機構がやっていることも再生ファンドそのものではないか。

経営者の独善を防ぎ、経営に透明性をもたらすという効果もある。株主の権利をないがしろにしがちな日本の経営風土だが、ファンドの介入によって経営が透明になるということも期待できる。

中小企業に馴染みの深いファンドといえ、ベンチャー・ファンドだろう。誕生直後のベンチャー企業に資金を提供して、その発展を手助けする。ベンチャー・ファンドのお陰で、どれだけの企業が発展できたことか。新興株式3市場には、ベンチャー・ファンドの手助けで一人前になった企業が多く顔を揃えている。

こう考えると、ファンドそのものを一

概に警戒するのは考えものであることがよくわかる。確かに、ファンドの多くは株式の売却益を得るのを直接の目的にしているから、逃げ足が速い。長期的な企業発展を目指しているとは言いにくい面がある。警戒したいファンドがあることは事実だろう。「はげたか(パルチャー)ファンド」と呼ばれるものだ。

しかし、ファンドの隆盛が一時的なものでないとするならば、中小企業もファンドとの付き合い方を考え直すべき時期に来ているのではないか。というのも(警戒したいファンドがある半面)、最近ではファンドの種類が多様化してきて、中小企業もファンドをうまく活用できる環境が整いつつあるからである。

なかでも、ファンドによる投資という手段で中小・ベンチャー企業の経営革新を促そうというファンドが出ている点は注目すべきだろう。一例を挙げると、金型設計の中小企業が大手証券会社と組んで設立した「金型革新ファンド」である。技術力は高いが、生産工程などに問題がある金型メーカーの株を買い取って、金型設計企業の持つIT(情報通信)技術を導入して効率的な生産システムを確立し、投資先の金型メーカーの企業価値を向上させようとするものである。

中小製造業の事業承継を目的に投資する「匠(たくみ)承継ファンド」というものもある。後継者難に悩む中小企業にとっては見逃せないファンドといえるのではないか。中小企業と大手企業の仲立ちをする「絆(きずな)ファンド」

店舗の新設だけに投資する「店舗ファンド」、商店街に出店する商業者に投資する「商店街ファンド」、20代の若手や女性の起業に投資するファンドなど、その多様性は目を見張るほどである。

さらに、地域や業種を限った投資ファンドも登場している。これも、一例だけを挙げる。埼玉県のある地銀が設立し、同県の中小・ベンチャー企業の投資する「むさしの地域活性化ファンド」だ。業種別では、バイオ関連のファンドが多いが、なかには産学連携ファンドというものもある。

以上紹介したファンドは、いずれもベンチャー・ファンドの変種というところだが、ファンドの目的と投資先の中小・ベンチャー企業の目的がほぼ一致しているのがわかるだろう。ファンドだからといって敬遠すべきものではないのではないか。事実、金型革新ファンドでは問題企業を優良企業に変身させた実績があるという。

一番望ましいのは、中小企業が自らの手で企業価値を向上させることだが、もし諸事情でそれが難しければ、ファンドの活用を考えてもいいのではないか。少なくとも、新しく生まれたファンドの中には利用できるものがあるように思う。

「わが社は上場していないから」と言っていて、ファンドをただ敬遠している時代は終わったのではないか。「はげたかファンドかどうか」の見極めが大切なことは言うまでもないが、中小企業もそろそろファンドを使いこなす術を身につけたいものである。